

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和7年(2025)/3.27発行 No. **188**

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第34回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・委員会報告
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引(186号~188号)



〔巻頭言〕

薬剤師は「力」持ち 石川県立中央病院 薬剤部長 米澤 美和…… 1

〔第34回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

発表者報告

公立宇出津総合病院における「院外処方箋事前合意プロトコル」導入による
効果と院内外の評価

金沢大学附属病院 岡野 麻衣…… 3

トレーシングレポートの質的・量的変化 金沢医科大学病院 松本 千明…… 5

能登半島地震支援活動から見えてきたもの 城北病院 針田 昌子…… 7

金沢大学附属病院における周術期薬物療法適正化への薬剤師の取り組みと成果

金沢大学附属病院 津澤 歩実…… 8

〔委員会報告〕

NST委員会

令和6年度第1回NST委員会研究会報告 金沢赤十字病院 神田 菜摘……10

精神科治療委員会

令和6年度第1回精神科治療委員会研修会報告

石川県済生会金沢病院 青木 理恵……11

教育研修委員会

第35回実務者研修会報告 珠洲市総合病院 中野 貴義……12

第35回実務者研修会アンケート結果 ……………13

災害対策特別委員会

第1回いしかわPhDLSプロバイダーコース開催報告

金沢医科大学病院 西田 祥啓……15

総務委員会

石川病薬バランスボール交流会を終えて 金沢医科大学病院 清水 善仁……16

〔エキスパートに聞く！ ～輝く石川のキラ星～ (29)〕

日本病院薬剤師会 「感染制御認定薬剤師」 やわたメディカルセンター 道下 孝恒……18

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 ……………20

〔南船北馬〕 ……………21

〔寄稿〕「古寺との結縁-65」 院瀬見 義弘……22

〔病薬ニュース索引 (186号～188号)〕 ……………26

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページのパスワードが新しくなりました。

巻頭言

薬剤師は「力」持ち

石川県立中央病院 薬剤部長 米 澤 美 和

薬剤師の業務が「対物から対人へ」と言われるなか、あるべき薬剤師像を考えてみる、という課題を自分に問いかけてみました。

若干の誤解を招く表現かもしれませんが、「人」にシフトするということは、「物」から離れるわけではありません。巡りに巡って「物」つまり「薬」を正しく扱うことが薬剤師の使命であると考えます。規制薬品の保管管理や品質保持のため、「物」を正しく取り扱う任務もあります。

まずは物を見て、剤型・性状から服用しやすさを判断し、そして患者さんの体内のADME（吸収・分布・代謝・排泄）に思いを巡らせます。そして最終段階で、薬剤師が「人」とかかわることで、薬が正しく摂取され、薬の効果が最大限に発揮できるのだと考えます。

入職数年後の当直業務にもすっかり慣れた頃、薬剤部の片隅にあった書籍*を見つけ、当直中に読みふけた記憶があります。サリドマイドをめぐる歴史物語でした。

サリドマイドは、米国ではついに発売されることはありませんでした。FDA新薬部門の審査官となったケルシー女史が、発売申請を行った製薬会社に以下の理由で待ったをかけ続けたためなのです。

- ・安全性を示す動物実験が不十分
- ・サリドマイドの副作用である多発性神経炎の発症メカニズムの未解明

（最初に指摘したのは安全性を示す動物実験が不十分であったこと、その後多発性神経炎に関する英国の論文を読み、催奇形性に着目したというのが真相のようです）

ケルシー女史は、「サリドマイドは成人に神経障害を引き起こすのだから、胎児にはより影響が出やすいということはないのか、ないとしたらそれを証明するための証拠を示さなければならない」と一歩も譲らなかったといいます。この時まで既に46の国々で販売されていたのですが、記録に残っている限り最初にこの素朴な疑問を呈したのはケルシー女史でした。

単純にカッコいいと触発され、「添付文書を下から読もう」つまりは「有効成分の構造式から物性を把握し、有効性及び安全性に関する試験の結果や薬物動態を理解したうえで、用法・用量および効能効果を確認する」そんな薬剤師になろう！と誓いました。（正確には、かつて誓ったことを原稿に書きながら思い出しました）

「物」に関する知識は、自己研鑽の賜物であり、我々の血となり肉となります。

対人のスキル、いわゆる患者さんへの服薬指導のコミュニケーション能力は、どのように磨かれるの

でしょうか？

そこで、職場のスタッフ間での「雑談」をお勧めいたします。(もちろんバックヤードでの話となります)

雑談により、職場のスタッフは互いの興味や考え方を共有することで、関係の深まりを感じることができます。そのため仕事の話題についてもオープンに話しやすくなり、アイデアや意見の交換が頻繁に行われるようになります。仕事で困難に感じていることも、打ち解けやすくなりませんか？

結果として、雑談は職場のコミュニケーションの質を向上させて、より協調的な風通しのよい職場環境が作られるのではないのでしょうか。

雑談により、互いの理解が深まり、壁がなくなることによって心理的安全性も高まります。

我々薬剤師の武器は

- ・薬に対する限らない探求「力」
- ・患者の自覚症状や臨床検査値等の与えられた情報の中から、副作用を見つけ出す推論「力」
- ・個々に応じた薬の情報提供「力」
- ・専門薬剤師等の各領域での結束「力」

とにかく、薬剤師はたくさんの「力」を持っています。いや、まだ「力」を発揮していない薬剤師もいるかもしれません。

石川県病院薬剤師会のコミュニティを通じた活動で、持っている潜在的「力」を発揮しましょう。そして「力」を磨きましょう。最近では、研修会もハイブリッドや現地開催も増えてきました。時間が許せば、現地で参加したいものです。他施設の薬剤師との情報交換、いや雑談をしてみませんか？

今回、巻頭言執筆の機会を頂いたことで、ケルシー女史に憧れた頃の気持ちに戻れたこと、薬剤師の「力」を考えるきっかけになったことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

*書籍：神と悪魔の薬サリドマイド 日経BP社発行 2001年12月 第1版
著者 トレント・ステフェン、ロック・プリンナー

